

< プログラム >

1 開会・挨拶

13:00-13:05 主催者挨拶 大田弘子 政策研究大学院大学学長

13:05-13:10 来賓挨拶 伊勢勝巳 東日本旅客鉄道株式会社副社長

2 特別講演

13:15-14:00 特別講演 「能登半島地震をどう考えるか、そして今後の備え」

平田直 東京大学名誉教授

14:00-14:15 質疑応答

3 パネルディスカッション1

14:25-15:35 「能登半島地震を踏まえた今後の地震対策のあり方」

今年の元旦に発生した能登半島地震では、建物や構造物の被害、土砂災害や液状化被害、津波被害、隆起被害、火災など複合的な災害が発生した。その後、台湾東部沖や豊後水道でも大きな地震が発生した。能登半島地震では、災害復旧のメインルートとなる幹線道路や集落をつなぐ道路が大きな被害を受けるとともに、電気、通信、上下水道などのライフラインが途絶する状況になった。また、建設時の耐震設計基準や耐震補耐の実施の有無によって被害に大きな差が発生した。これらを踏まえて、今後の地震対策のあり方について議論する。

パネラー（五十音順）

家田仁 政策研究大学院大学特別教授

片山耕治 政策研究大学院大学教授

鎌田泰子 神戸大学大学院工学研究科教授

古関潤一 東京大学名誉教授/ライト工業株式会社テクニカルオフィサー

野澤伸一郎 JR 東日本コンサルタンツ株式会社常務取締役技術本部長

モデレーター

須田久美子 鹿島建設株式会社土木管理本部専任部長

4 パネルディスカッション2

15:45-16:55 「行政・民間の枠を超えた地震対策の総力戦」

能登半島地震を始めとする大規模災害の発生時に、人命救助や災害復旧を迅速に行うためには、災害の発生箇所、規模や要因の速やかな把握が重要である。これには、地震計などによる地上のデータと航空測量などの上空からのデータを重ねて評

価して初動体制をとることが有効で、行政機関だけでなく、民間企業が持つデータも上手く活用することでより詳細な評価が可能になると考えられる。そこで、行政・民間の枠を超えたデータや情報の活用方法について議論する。

パネラー（五十音順）

植野芳彦 富山市政策参与／植野インフラマネジメントオフィス代表

酒井慎一 東京大学情報学環・学際情報学府兼地震研究所教授

四宮卓夫 東日本旅客鉄道株式会社防災研究所所長

高山陶子 アジア航測株式会社社会インフラマネジメント事業部長

室田哲男 政策研究大学院大学教授

モデレーター

鈴木博人 政策研究大学院大学教授

5 閉会・挨拶

16:55-17:00 閉会挨拶 家田仁 政策研究大学院大学特別教授

<特別講演者略歴>

平田直 東京大学名誉教授

東京大学地震研究所教授，地震研究所長を歴任し，東京大学名誉教授．政府の地震調査研究推進本部・地震調査委員長，気象庁の南海トラフ地震に関する評価検討会長を務める．専門は，観測地震学，地殻構造論，地震防災．